

平成31年度 農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 事業実施主体 評価結果

1. 事業評価の実施

平成31年度に実施された農山漁村振興交付金(山村活性化対策)の事業について、「農山漁村振興交付金実施要領」(平成29年3月31日付け28農振第2284号農林水産省農村振興局長通知)別紙3の第7の1の規定に基づき、評価を行ったので、その結果を公表する。

2. 評価結果

都道府県	市町村	事業実施主体名	事業実施段階			評価	評価コメント
			H29	H30	H31		
岐阜県	飛騨市	飛騨市	●	●	■	B	計画書記載の取り組みを計画どおりすべて実施したものの、平成31年度という単年度評価においては一部目標を下回る結果となった。しかしながら、今後の事業を中長期的視点で俯瞰すると、地域産広葉樹の新たなサプライチェーン構築を目指す新たな組織の設立など、令和3年度以降の取り組みにつながる成果を出すことができたと考えられる。

(注1) 「事業実施段階」の凡例: ○・・交付対象年度(計画) ●・・交付対象年度(実施済) □・・目標年度(計画) ■・・目標年度(実施済)

(注2) 「評価」の区分: A・・優良 B・・良好 C・・低調

3. 第三者の意見聴取

農山漁村振興交付金実施要領別紙3の第7の1の規定に基づき、第三者である 飛騨市森林審議会会長 直井隆次氏、飛騨市地域林政アドバイザー 中谷和司氏 から評価に当たり意見の聴取を行った。第三者及び意見聴取の概要は以下のとおり。

【第三者】

飛騨市森林審議会 会長 直井 隆次
飛騨市地域林政アドバイザー 中谷 和司

【意見聴取の概要】

成果指標の達成状況に照らし、実施事業の詳細についてはそれぞれ改善すべき箇所はあるものの、取り組み全体が地域に与えたインパクト、関係者の連携強化、広葉樹活用に必要な新たな仕組みづくり等については、全国に発信できるレベルにあると評価し、今後を期待する。

ただし、全国でも例のない取り組みであるが故に、地域内事業者等が自立した活動を展開するまでには、まだ一定の期間を要すると考えられるため、引き続き行政との密接な連携の下で事業を推進する必要がある。

農山漁村振興交付金(山村活性化対策) 評価シート

1. 事業実施主体(評価者)	飛騨市	事業開始年度	目標年度	事業実施期間
2. 取組振興山村名	小鷹利村・細江村 / 河合村 / 坂上村・坂下村	平成29年度	令和元年度	令和元年5月20日～令和2年3月12日
3. 事業費(うち国費)	9,975,866円 (9,453,468円)			
4. 第三者氏名	直井隆次 ・ 中谷和司			
5. 事業評価				
総合評価				
○ 取組の実施状況や目標の達成に必要な取組が十分に行われたか。 (①から④までを踏まえた総合的な評価)		<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <p>・計画書記載の取組は計画どおりすべて実施することができたが、平成31年(令和元年)度という単年度評価においては残念ながら一部目標を下回る結果となった。しかしながら、今後の事業を中長期的視点で俯瞰すると、令和3年度以降の取組みにつながる成果を3年間に出すことができたと考ええる。</p> <p>【第三者評価】</p> <p>・総合的にみて、飛騨市の「広葉樹のまちづくり」の取組の一つである本事業は、目標数値に達していない部分もあるが、「広葉樹のまちづくり円卓会議」により、意思疎通が希薄であった関係者間の横の連携強化と、問題・課題の共有、そして連帯感が生まれたことは、人づくりとしても大きな成果である。また、次年度以降の具体的な取組みに発展性をもって繋げていけたことは、一過性の取組ではなく今後の山村振興の礎となった証である。</p> <p>・事業の目的達成を目指して、飛騨市に於いては従来なかった取組みが計画され、一部ではあるが市民と行政が協力し合い目的を目指したことは大いに評価できる。これらの取組みが将来につながる結果及びその下地づくりにどれだけ寄与したかについては、改善の余地はまだあるものの、限られた年度内で結果を得ることは容易ではないことを踏まえると、今年度の取組みは評価できる。</p>		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象			
① 取組状況				
○ 目標の達成に資するための取組が行われたか。		<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <p>事業実施計画書に基づき、計画事業の全てを予定どおり実施した。</p> <p>【第三者評価】</p> <p>・「広葉樹の活用」を掲げた山村振興の取組みは、全国的に少なく、かつ「森づくり(森林の価値の向上)」を含めた事例がほとんどない中で、独自の取組みとして実施してきたことは、確固たる信念のもとで事業がなされたことと評価できる。また、その取組みも全国であり事例がないものであるため、全国から視察や講演依頼があることから、広葉樹活用の先駆けとして注目を浴びている証拠である。</p> <p>・目的達成のための取組みと見れば、当初の事業計画のとおり実施されており、かつ内容も苦心したものであることが伺える事から、評価できる。ただし、各々の取組みの成果については、関係者の直接的な経済効果があると言いつてもいい部分もあり、その点の検証を要する。(新たな商品の開発のみならず販売・売上等についても検証すべき)</p>		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象			
② 事業実績				
○ 事業実施計画の目標は達成できているか。		<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <p>・3つの評価指標のうち2つ(飛騨の森でクマは踊るの売上、新たな木製品の開発数)において目標を達成できなかったが、その理由では中長期的視点で令和2年度以降の事業を見据えたものであり、飛騨市において小径広葉樹の新たなサプライチェーン構築を目指す「飛騨市広葉樹活用推進コンソーシアム」を設立することが決定するなど、これまでの取組み契機となって自立的な事業展開につながっている。</p> <p>【第三者評価】</p> <p>・目標の3指標については、うち2項目が達成できていないが、いずれも80%以上と大きく目標を下回っているものではない。また、交付金事業の目標は確かに指標として重要ではあるが、数値目標の達成のみに注力すると取組みの本質を見失うことも少なからずあることから、数値目標を達成していないこと理由こそが重要である。</p> <p>・(株)飛騨の森でクマは踊るの年間売上が1億円を超えているが、その内容をもっと市民に明らかにすべきである(第三セクターであるため市民も出資者である)、また 売上げの内、飛騨市産材の売上げ、加工や施工を含めた飛騨市内事業者への事業委託(下請け)など、地域への経済波及効果(産業連関)が不明である。なお、指標となっている新たな商品開発実績値については、本来開発点数ではなく販売実績若しくは販売実績の伸びとするのが相応しい。</p>		
評価 (該当に○)	(A) (B) (C)重点指導対象			

③ 実施体制		<p>(評価理由及び助言等のコメント)</p> <ul style="list-style-type: none"> 市を中心に引き続き森林整備及び活用分野の関係者により組織された「飛騨市広葉樹のまちづくり円卓会議」により、川上から川下までの関係者が1つのテーブルに着いて意見交換、企画、実践できる仕組みづくりを行った。こうした取り組みにより、市主催の「広葉樹のまちづくりセミナー」や先進地研究などへの関係者の能動的な参加も見られ、自立的な事業展開につながっている。 <p>【第三者評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山村活性化の主役は、実践している地域の事業者や事業体であることから、川上から川下までの関係者が一つのテーブルに着く円卓会議を組織し、意見交換から企画立案、そして実践まで出来る現在の仕組みは、関係者の主体性を感化し自立した取り組みや実績に繋がっているものと評価する。また、円卓会議の構成員は、主に団体の長など、いわゆる「充て職」ではなく、実際の現場で活躍している関係者であり、意欲も高いため、互いに刺激を受け自分自身の課題として建設的な意見に終始していることも評価できる。 様々な分野の関係者が一堂に会し、専門的な見地からの意見交換は、事業の主役である関係者にとって大きな研修の場であったと評価できる。ただし、それらの意見交換で得た情報が、必ずしも実践できるものではなかった部分もあるため、今後の自主的な活動につなげて行くには、さらなる支援が必要と考える。
○ 事業実施主体の取組体制は十分に機能したか。	<p>評価 (該当に○)</p> <p>(A) (B) (C)</p>	
④ その他		<ul style="list-style-type: none"> 今回の事業は広葉樹活用に特化した事業であるが、そもそも森林には多様な資源があり、その質も一様ではない事から、森林全体をもっと広義に「資源」捉える必要もあるのではないか。